

令和6年度
第38回 少年の主張甘楽町大会

発表文集



甘楽町教育委員会

目次

(敬称略)

◆最優秀賞

・ 多様性と校則	甘楽町立甘楽中学校二年	清水空麗	1
・ 私たちが継ぐ	甘楽町立甘楽中学校三年	松井望音	3
・ 本当の思い	甘楽町立甘楽中学校三年	土筆心愛	6

◆優秀賞

・ 言葉の重さ	甘楽町立甘楽中学校一年	斎藤真優	8
・ 「おはよう」から始まる毎日	甘楽町立甘楽中学校一年	山口啓太	10
・ ありがとうの大切さ	甘楽町立甘楽中学校一年	小瀬暁人	12
・ 一口でも多く	甘楽町立甘楽中学校二年	鈴木美和	14
・ その時あなたはどうか行動する？	甘楽町立甘楽中学校二年	中島千菜乃	16
・ 「普通」は誰が決めるのか	甘楽町立甘楽中学校三年	荒木皐佑	19
・ 本当の思い	甘楽町立甘楽中学校三年	吉田蓮	21

*原文のまま、各賞ごと学年順に掲載しています

多様性と校則

甘楽町立甘楽中学校

二年 清水 空麗

「校則やルール」は、誰のためにあるのだろうか？ 学校に入学したとき、私はそう考えていました。小学校では服装も髪型も自由でしたが、中学校には「校則」というものがあり、生徒はみんなそれを守って学校生活を送っています。たまに、嫌だったり窮屈だったりすることもあります。ですが私は、校則はなくてはならないもので、変わることがないし、その必要もないと思っていました。しかし、その考えは二つのことをきっかけに変わりました。

一つ目は、「制服」の着用についてです。私は、制服を着ても何も思うことはありませんが、中には「面倒くさい」「堅苦しい」「暑い」などという理由以外で「イヤだな。」と感じる人もいることを知りました。

私は、他校に友達がいいます。その友達は、身体は男

の子で心は女の子です。私は、彼女と仲良くなるまでその事を知りませんでした。それほど、周囲に気づかれないように気をつけていたのです。ある日、彼女は私に話してくれました。「制服を着るのがイヤなんだ。鏡を見る度にモヤモヤするし。スラックスをはいている女子を見るといつも羨ましいなって思う。スカートにしたらダメなのかな？ 家族や先生にも聞きにくいし、どうすればいいか分からないんだ・・・。」彼女の話し方は、笑っていて軽い感じでしたが、私は、その相談に答えることができませんでした。なぜなら、それまで私は男子のスカート着用について校則に明記されていないことに疑問を持っていなかったからです。私のことを信頼して話してくれたのに、彼女に返す言葉が見つからず、とても申し訳なく思いました。

「多様性の社会」「多様性を認め合う。」そんな前向きな言葉が最近増えていきます。私は、その言葉を聞く度に彼女のことを思い出します。彼女のように校則に悩まされている人がいるこの現状は、本当の意味での「多様性の社会」と呼べるのかと。

二つ目のきっかけは、生徒会本部役員選挙の方式が変わったことです。本校では、昨年度から、以前の会長一名、男子三名女子三名の計七名を選ぶ選挙から、性別に関係なく得票数が多い順に七名の本部役員を選ぶ選挙に変わりました。私は、それを聞いて「今までの決まり」が変わったことに驚きました。それと同時に、これはとても良いことだと感じました。なぜなら、リーダーシップがある人や、みんなをまとめられる人は、性別なんか関係ないからです。私と同じように考える人が多くいたから、このような決まりに変わったのだと思います。

この二つのことを通して、私は、「校則やルールは誰のためにあるのだろう？」という疑問の答えを自分なりに出すことができました。私は、校則は生徒みんなのためにあると思います。もちろん、私の友達、いわゆる性的少数者も含めてです。私は、あの会話を彼女とした後、自分にできることは何かないか、とインターネットで校則について調べてみました。すると、文部科学省が校則について書いているものを見つけま

した。それによると、「校則の内容は、社会通念に照らして合理的とみられる範囲内で、学校や地域の実態に応じて適切に定められることになる」ということでした。社会通念とは、社会一般に通用している常識または見解のことです。社会通念は、常に変化していきます。それなのに校則だけが変わらないのはおかしいのではないかと私は考えました。

以上のことをふまえて、私は、校則も社会や世の中の流れに合わせて変える必要があると思います。今まであった決まりをいきなり変えることは難しく不可能に近いと思います。しかし、校則は変わらなくても、社会は変わっています。少数派が笑われたり、腫れ物に触るように扱われたり、おかしい目で見られたりすることは、あつてはならないのです。私はこの思いを胸に、一人でも多くの人が楽しい学校生活を送れるきっかけをつくっていききたいです。

私たちが継ぐ

甘楽町立甘楽中学校

三年 松井 望音

最初に、皆さんに質問があります。

「4つの北方領土、あなたはすべて言えますか。」

この質問に完璧に答えられる人はどのくらいいるのでしょうか。

私は去年の夏、群馬県が行っている二泊三日の北方領土の研修に行きました。この話をするとないてい人は「北方領土どうだった？」と聞いてきます。ですが現実はその甘くはありません。北方領土には行けるはずがないのです。なぜかは皆さんもご存じの通り、日本固有の領土である択捉島、国後島、色丹島、歯舞群島の4つからなる北方領土は、現在ロシアに占領されているからです。

このことを聞いて少し遠い存在だと、北海道のみの問題だと思った方もいるのではないのでしょうか。私も

最初はそうでした。研修に行く前は、北海道に行けるんだいくらいにしか思っていなくて、事前学習の時に最初に話した質問と同じことを聞かれ焦りました。隣に座っていた子はすらすらと4つの島の名前を言ったので、余計に焦りを覚えました。実際に北方領土を目で見て学んだ3日間。帰ってきたときずっと口から出てきた4つの島の名前。目の当たりにしてきた日本が抱える深刻な問題を放っておくわけにはいかないと思いました。

そもそもなぜロシアが占領しているのか。第二次世界大戦前は北方領土を含む千島列島は日本のものでした。第二次世界大戦後の1951年、サンフランシスコ平和条約により千島列島を放棄しました。その中には北方領土は入っていません。つまり理論上は日本の領土です。ですが旧ソ連側は、北方領土は千島列島に入る、だからうちの国のものだと言っているのです。

この話を聞いたとき私は正直、小学校低学年のばなはおやつに入りますかの質問が国際的になっただけじゃないかと思ってしまいました。ここでいう北方領

土はばなな。千島列島はおやつ。果たしてバナナはおやつに入るのか、はいらないのか。同じです。もちろん北方領土はおやつではなく日本の領土ですが。では、なぜ北方領土が戻ってきてほしいと北海道に住む元島民の人や日本政府は思うのでしょうか。

私は研修で幼少期を色丹島で過ごした元島民の方の話を聞いてきました。その方は「今の北方領土はロシアが不法占領した時と環境は全く変わらないまま暮らしています。ライフラインもともに整っていないところもあります。それはロシア政府側の手が完全に行き届いていないからです。」といいました。戦後の日本の暮らしをしていると考えるとかなり環境が整っていないことが分かります。また、「向こうに住んでいる人がふとつぶやいたんだけど日本はいま世界でトップレベルの環境で暮らせているよね、だったら日本になっちやったほうがいいかもしれない。」と言っていましたと聞きました。

現地の人がここはロシアだ、日本は入ってくるなどとは言っていない。ただ単にロシア政府が言い張っている

だけです。この現状を皆さんはどのように捉えるのでしょうか。

日本の最東端、納沙布岬というところがあります。そこからわずか3・7km先には一番近い歯舞群島の貝殻島という島があります。3・7km先というと私の通学路より少し長いくらい。たった3・7km先に行けない、それも向こうの一方的な主張のせいだ。

私たちにできることは限られてくると思います。国際的な問題です。そんな北方領土くらいで、思うかもしれませんが。ですが、苦しんでいる人はここ日本に住んでいる元島民の皆様やその子孫の方々、そして現在も向こうに住んでいるロシアの方々も同じです。今年戦後70年がたちます。元島民の皆様の語り部活動だけでは時間的にも労力的にももう無理です。次は私たちがこの問題を継いでいきませんか。私が聞いた、語り部の元島民の方は「泣きながらも話さないとこの問題は一向に進まない。」といいました。それを見事にしないためにも主張します。まずはこの現状を知ることから始めませんか。現地に行けなくても遠い地

域の問題でも変わりません、日本の問題です。私はこの主張を通して北方領土問題を知る人、考える人が一人でも増えることを願っています。

本当の思い

甘楽町立甘楽中学校

三年 土筆 心愛

本当の自分の思い、本当に自分が伝えたい事。みなさんは伝えられていますか？

私は、最近自分の思いを隠してしまう人が増えたなというように感じます。自分の思いを隠さず伝えることは大切なのか、しっかりと伝えるためには何が必要なのか、自分なりに考えてみました。

まず、本当に自分が伝えたいこととは、気持ちを話したりすることや自分の夢やなりたい姿を話すことなど、たくさん含まれると思います。「嬉しい」とか「悲しい」とか「驚いた」とか。ささいなことも伝えたい事だと思います。では、なぜ自分の思いを隠してしまう人が増えたな。と思うのか。それは、私視点から見て、この子自分の思い話してないな。と思ったり、友達から、「さっき本当は嫌だったけど、言えなかつ

たんだよね。」などと、相談されたりすることが増えたから。ということもありますが、実際に私も、伝えなかったことで起こってしまった、考えのすれ違いがあったからです。

これは、私がしっかりと自分の思いを伝えられていなかった頃の話です。私はとある小さなことがきっかけで大切な友達と喧嘩をしてしまいました。お互いに、本当に思っていることをいって、仲直りしようといっていました。私が、思いを伝えて嫌われるのが怖い、否定されるのが怖いという考えから、自分の本当の思いを伝えていませんでした。相手の子は私に歩み寄って本当の思いを聞いてくれようとして、受け入れると言ってくれたのに。そこで私は思いました。本当にそのままでもいいのか。自分の思いが伝えられず、ずっと考えこんだままで、相手の気持ちもずっと知らないままで。これから、もうずっとすれ違ったままになってしまいかもしれないのに。と伝えることの大切さに気が付くことができました。とは言っても、伝えるというものは

難しいものです。ですが私はこの時、伝えることの大切さとともに、伝えるために何が必要かを気づくことができました。それは、信用です。相手のことも、自分のことも信用してあげれば、きっと伝えることができると思います。「自分が伝えたい事は、自分だけの本当の思いなんだ。」と「自分のことを信じてあげること、相手は自分の思いをきっと受け入れてくれる。自分の思いをきっと信じてくれる。」と相手を信じる事が大切だと思いました。私は今まで、受け入れてくれるといわれていたのに、信用することができていませんでした。相手から私の思いを聞き出そうとしてくれているのに、言えなかった。自分は自分を隠しているばかりでした。でも、もうこのようなことは繰り返したくありません。自分の思いを伝えて、お互いに分かり合えるようにしたい。そのためには、信用する心をもって、伝えることが大切なんだな。そう気づくことができました。私が勇気を出して、本当の思いを伝えたとき、相手はやはり、私の思いを受け入れてくれました。その一瞬で私はすごく心が軽くなったよう

に感じました。やっぱりこの人を信用してよかった。伝えてよかった。そう思うことができました。

このように相手のことも自分も信用することができると、本当の思いを伝えられるようになると思います。そして最後に、私から皆さんに伝えたいことがあります。本当の思いを伝えるのはすごく難しいことです。そして、伝えたい事を言い出すのはいつでも、どんなことでも、怖いですよ。でも大丈夫！あなたの思いはあなただけの大切な思いです。胸をはって、自信を持ってください。そしてあなたの目の前にいる思いを伝えたい人。その人もきくと、あなたの思いを受け入れ、理解してくれたり、支えてくれたりするかもしれません。だからみなさんも自分の本当の思いを大切に、信用をもって自分の思いを伝えられるようにしていきませんか？

言葉の重さ

甘楽町立甘楽中学校

一年 斎藤 真優

皆さんは言葉には重さがあると思いますか？

私は、同世代の人の中には、言葉遣いが荒かったり、何も考えずに発した言葉で、知らないうちに誰かを傷つけたりしている人がいるのではないかと思います。そう思ったきっかけは、友達と一緒にいた時の出来事でした。一人の友達がちょっとした言い間違えをしただけで、数人で相手が傷つくようなきつい言葉で言い返していました。私はその時、祖母との会話を思い出しました。祖母は、私が言い間違えをしてもきつい言葉で言い返してくることなど決してしませんでした。私が間違ったことを言った時、祖母は、穏やかに聞き返してくれたり、話を進めてくれるのでとても会話がしやすいです。

その時に、私たちと同世代の人たちは気づかないう

ちに誰かのことを傷つけて、人の気持ちを考えずに話してしまうことが当たり前になっているのではないかと思います。そこで、自分の思いや言葉の発し方について改めて考えようと思いました。

自分の思いを発することは、インターネット上でも同じです。ある有名人のゴシップ記事への、たくさんの誹謗中傷のコメントを見たことがあります。そのコメントを打った人たちは、現場を見たわけでもなければ、その嘘か真実かすら分からない情報を見つけただけに過ぎないのです。それなのに、悪い情報に対し、思い込みの正義感をたてに、ひどいコメントを残していました。それを見て、このようなことを言ったらこの人は傷つくのではないか、とか、これは言うべきことではないかもしれない、ということを深く考えない人が多いのではないかと思います。

ここまで、誰かを傷つけた例ばかりでしたが、反対に、何か一言声をかけるだけで誰かを救うこともできるのです。

例えば誰かに「ありがとう」や「助かったよ」と言

われていやな気持ちをする人はいないでしょう。また、落ち込んでいるときに温かい言葉をかけられると、心が救われた気分になると思います。このように、誰かを傷つけるのではなく、誰かの心を優しく包み込むような言葉をかけることをみんなで心がければ、きっと明るい社会を築いていけると思います。

私たちは何も話さずに生活することは不可能です。会話をしなければ相手に気持ちを伝えられないし、伝えてもらわないと相手の気持ちを理解することはできません。だからといって、全てを伝えることがよいとは言えません。例えばサプライズの内容を口にして、事前にわかってしまつては面白くないでしょう。だから常に真ん中を意識して話すことが私は大事だと思います。

そして、軽々しく暴言を吐くことは、簡単に相手を傷つけてしまうのでやめるべきです。「そんなの、当たり前でしょ」と思うかもしれせん。でも普段の会話を思い返してみてください。そこまでのつもりはなくても、不意に言葉遣いが荒くなっていませんか。仲

のいい友達だから、自分が正しいと思っているからといって、きつい言葉を発していませんか？

言葉には重さがあります。そのことを常に意識していたいと思います。

「おはよう」から始まる毎日

甘楽町立甘楽中学校

一年 山口 啓太

「おはよう」そう言われたとき、皆さんはどうしていますか。僕は「おはよう」と返すとともに笑顔になります。「おはよう」だけでなく、あいさつをするということにはどのような意味が込められているのか。そのことに興味をもったため、あいさつについて考えてみることにしました。

僕は、あいさつの仕方には三種類あると思います。一つは、ただ言葉を発しているだけの心のこもっていないあいさつ。二つ目は、元気が良くて声も大きいけれど、何も考えず心はこもっていないあいさつ。そしてもう一つは、心がこもっていて、明るく温かいあいさつ。当然、三つ目のあいさつが良いと思いますよね。皆さんがふだんしているあいさつは、この三つのうちのどれに当てはまると思いますか。私は、一つ目のあ

いさつをしていることが多かったと思います。あいさつをするのは当たり前で、特に何も考えず、誰かにあったらとりあえず声に出してみる、そんなあいさつでした。しかし、この一つ目のあいさつでは、相手はどう思うでしょうか。元気もなく心もこもっていないあいさつでは、「この人は何を考えているのだろう」「元気ないけど大丈夫かな」と、心の中で思ってしまうかもしれません。それでは、せっかくあいさつをしているのに、相手にも自分にもマイナスな気持ちが生まれてしまいます。

二つ目のあいさつも、元気が良くて明るい印象は受けると思いますが、やはり、心を込めていないことは相手に伝わってしまうと思います。だから、やはり三つ目の心がこもっていて、明るく温かいあいさつ、を心がけるべきだと思います。「おはよう」も「こんにちは」も本当に短い言葉で、あいさつを交わす瞬間は、一日のなかでもほんの一瞬ですが、その一瞬に、相手を思い心を込めることで、それが相手にも伝わり、自分も、相手も温かく明るい気持ちになれると思います。

「これが心のこもったあいさつか！」そう思った出来事があります。小学六年生の時の下校時のことです。通学路にいた地域の方々に、僕は少し恥ずかしくて大きな声であいさつができなかったのですが、そこにいた方々が、「おかえり。気をつけて帰ってね。」と、温かく優しい笑顔で言うてくれました。その笑顔と声に、自分の心が温かくなるのを感じました。そして、このように心をこめると、相手にも伝わるのだということに気づかされたのです。

普段、一つ目、二つ目のあいさつをしていた人は、少しずつ三つ目のあいさつを心掛けてみてください。自分の気持ち次第で、きっと素敵なあいさつができる人は増えると思います。

近年、多くの人がスマートフォンを使用し、使い過ぎから依存症になってしまったり、ネット犯罪に巻き込まれる件数が増えてしまっています。内閣府の調査では、十歳から十七歳までのスマートフォン使用率は七十三パーセントまで昇ることが明らかになっていきます。当然、日常生活の中でスマートフォンの画面を見

る時間は増えているはずです。一人で画面を見て楽しむことで、家族や地域の方と顔を合わせる時間が減っているのではないのでしょうか。だからこそ、一日の中でできるだけ多くの人の顔を見てあいさつをし、短い時間でも温かい心を通わせる時間を作っていくことが大切だと思います。

明るいあいさつが生み出すものは、笑顔や元気など、いいことばかりです。あいさつは、家族とのつながりです。地域とのつながりです。皆さんでいっしょに、明るいあいさつがもっとあふれる世界を作っていきましょう。

ありがとうの大切さ

甘楽町立甘楽中学校

一年 小瀬 暁人

「ありがとう」これは、僕が大切にしている言葉です。ありがとうと言われると、うれしい気持ちになります。「ありがとう」と言った側の人も、同じ気持ちになるそうです。

だから、小さな出来事に対しても、みんなが「ありがとう」をたくさん言葉にして伝えてほしいです。僕は日頃から、自分の家族にもありがとうと、感謝の気持ちを伝えるよう心がけています。例えば、「食事を作ってくれてありがとう」、「迎えに来てくれてありがとう」など、家族だと、何かをしてもらったとしても当たり前のことだと感じてしまうことも多いけれど、日頃から感謝の心を持ち、それを口にする事で、友達や先生、初対面の人にも自然と「ありがとう」と言える習慣がつくのではないかと思います。

そんな僕の、今までで一番うれしかったありがとうは、母から言われた「生まれてきてくれてありがとう」です。これは、ある年の僕の誕生日の出来事でした。その時に感じたことは、自分がいるだけで、誰かを幸せにできているのだ、ということです。僕は「こちらこそ、産んでくれてありがとう」と素直な感謝の気持ちを伝えました。少し恥ずかしかったですが、あの時のありがとうは、「今、自分は幸せだよ」という意味を込めたありがとうだったと思います。

小学生の時に、「ありがとうの木」という全校で取り組むイベントがありました。ハートの形の用紙に、誰かに何かしてもらったことへの感謝の気持ちを書くというものでした。消しゴムを拾ってくれてありがとうや、明るい挨拶をしてくれてありがとう、など、些細なことも一つ一つ書いていきました。みんなで作る「ありがとうの木」はどんどん大きくなり、僕たちの生活にはありがとうがこんなにたくさんあふれているということに気づくことができました。そして、イベントを終えた後も、自然と「ありがとう」と言葉にす

る人が増えたような気がしました。このイベントを通して、当たり前ではなく、感謝の気持ちをもつ場面に気づくこと、そしてそれを伝えようという意識をもつことで、温かい気持ちのやりとりが増えていくのだと思います。

ありがとうは、感謝の気持ちを伝え、言った人と言われた人の気持ちを温かくつなげる大切な言葉です。小さなことでも、身近な人にも、恥ずかしがらずに伝えてほしいと思います。甘楽中学校でも、「ありがとう」を大切にしています。僕は今年甘楽中に入学し、三つの小学校から集まって一つ学年になり、新しい仲間も増えました。これからの三年間をみんなで素晴らしいものにするために、感謝の気持ちを忘れずに中学校生活を送りたいです。

一口でも多く

甘楽町立甘楽中学校

二年 鈴木 美和

「もったいないなあ。まだ食べられるのに。」残った給食を見て私はいつもこう思います。なぜなら、その給食は廃棄されるしかないからです。

私は好き嫌いがあって、給食を減らしてしまうことがあります。「もったいないことをしている」とは思います。ですが、「苦手なものは避けたい。食べたくない。」と思って減らしてしまいます。そして、私はこの行動が世界の食品の問題を深刻にしていることに胸を痛めます。

皆さんは、「フードロス」という言葉を知っていますか？私は、家庭科の授業で食品の問題に触れたとき、詳しく知りました。フードロスとは、まだ食べられるのに食品が廃棄されてしまうことです。この言葉を習ったとき、私は「そうなんだな。」と軽

く受け止めていました。この問題が私たちにとって深刻な問題だということを知らずに・・・。

ある日、私がニュースを見ていたときに、衝撃を受けるニュースが流されていました。それは、「フードロスになっている食品が多すぎる」というニュースでした。テレビには、いくつもの食品が潰されて捨てられている映像が流れています。その中には、まだ食べられる食品がたくさん含まれていました。またその量はあまりにも多いものでした。次に、日本で廃棄されている食品の量が流れてきました。それは、日本は年間「六百万トン」というものでした。六百万トンといえば、世界の飢餓で苦しんでいる人たちへ支援できる食料よりも多い量なのです。そのことを知ったとき、私は驚きました。「日本はこんなにも食品を廃棄しているのか。これ以上増えたら大変だ！」と。ニュースを見ていたら、自分はいくつ給食を減らしてしまっていることを思い出しました。そして、六百万トンの中に自分が減らしてしまった給食が入っていることに気づき、「もつ

たいないことをしてしまったなあ」と深く反省しました。自分の減らした給食が、フードロスにつながっていたなんて・・・。

そのことがあってから私は、給食はなるべく減らさないようにすることにしました。自分の努力で廃棄される食品が減るといいな、と思いながら・そして、余裕があったらおかわりをして給食が残らないようにしました。自分がおかわりすることで給食の食缶が空になったときは、「フードロスの削減に貢献できた」とうれしくなりました。

私は、何度かおかわりをして気づいたことがあります。それは、「一口でも多く食べればフードロスは減らせる。」ということです。例えば、ご飯の一口を十七グラムとすると、十人が一口でも多く食べれば百七十グラムも減らせることができます。このことから私は、フードロスを減らす一番簡単な方法は「一口でも多く食べる」と言うことだと思います。このようにすることによって、たくさんの食品を守ることができるのです。だから、皆さん、苦手な食

べ物でも、是非減らす前に一口少なく減らしてみてください。そして、一口でも多く食べてみてください。これだけでも、食品ロスに貢献できると思います。さらに、「自分だけ」ではなく「全員で協力する」ことで、もっともっと食品ロスを減らすことができます。

今、世界ではまだ食べられるのに廃棄されてしまう食品がたくさんあります。食品が廃棄されたら、作ってくださった人たちは悲しみます。また、残ったものが燃やされて二酸化炭素が排出されて地球にも悪影響を及ぼします。食べ物が廃棄されることに良いことはありません！

皆さん、大切な食品のために、全員で協力し合い、一口でも多く食べて食品を守りましょう。

その時あなたはどう行動する？

甘楽町立甘楽中学校

二年 中島 千葉乃

今年の一月一日午後四時十分。皆さんは、何をしていましたか？私は祖父の家でいとこ達とおせちを食べた後、テレビを見ながら楽しく過ごしていました。その時です。あちらこちらの携帯から「地震です。地震です。」と緊急地震速報が鳴り響きました。

「あ、地震が来る！」と誰かが言いました。その時私は、いつものように小さな地震だろうと思い、さほど恐怖を覚えませんでした。その直後に地震が来ましたが、すぐに治まるだろうと、身を守ることはしませんでした。「あまり揺れなくて良かったね。どこが震源だったのだろう？」とテレビに地震速報が出るのをみんなで見目していました。すると、「北陸地方で震度七を観測しました。津波に注意してください。」と速報が流れました。

「あつ、茉梨乃は。茉梨乃は大丈夫？」と誰かが言いました。私の姉は新潟県新潟市に住んでいます。本来ならば、お正月に帰ってくるのですが、今年は地元の「二十歳の集い」が一月七日に開催されるのに合わせて帰ってくる予定になっていました。新潟県は、北陸ほどではないものの、震度六弱や五強の揺れを観測しています。そして何より、姉のアパートは海から二キロメートルほどの所にあり、津波が心配されました。母がすぐ姉に電話をかけました。お正月の和やかなバラエティー番組から地震の一番に変わったテレビ画面では、「津波が来ます！逃げてください！直ちに命を守る行動をとってください！」とアナウンサーが呼びかけ続けています。

姉が新潟に住んでまだ二年弱。海なし県に育った私たちは、この後姉がどう行動すれば良いのか咄嗟に判断ができませんでした。姉はアパートの二階に住んでいるので、そのまま居続けるべきなのか、それとも避難所に避難すべきなのか。すると、窓の外をのぞいた姉が、「近所の人たちが近くの小学校に向かっている

る。」と言うので、同じように小学校に避難するよう母が伝えました。その後、小学校の屋上に避難したと姉から連絡が入りました。新潟の冬は群馬よりも寒いので、いつまで屋上に避難しているのか母はとても心配していました。しばらくすると、津波警報は解除され、夜にはアパートに無事帰って来られたようです。しかし、新潟市内は液化化などの被害も大きく、道路が陥没したり、電信柱や家が傾いてしまう被害もありました。そのため、その後も在来線が止まってしまい、帰省にも困難が生じました。

このように、能登半島から離れた新潟県でも被害があった「能登半島地震。」能登半島の被害は甚大で、二四五名の方が亡くなっています。

この地震により亡くなられた方々も、私たちと同じようにお正月を祝い、家族で楽しく過ごしていたに違いありません。それを考えると胸が痛みます。もしかしたら、能登の人たちも揺れ始めは「あつ、またいつもの地震だ。」と私と同じように思ったかもしれせん。こんな大きな地震が「まさか」よりによって一月

一日元日に起きるなんて誰が想像していたでしょう。その「まさか」が起きてしまったのです。

日本は地震が多い国だということを中学校一年の理科で習いました。実際私も、震度三程度の地震は年に何回かは経験しています。そのためか、今回の地震に関しても、私は緊急地震速報が鳴ったにも関わらず、「たいしたことはないだろう。」と勝手に思い込んでしまいました。このように考えてしまうことを「正常性バイアス」というのだと母から聞きました。

例えば、実際に火災報知器が鳴っても、「点検だろう」と思い込んだり、「みんなが逃げないので自分も大丈夫」と逃げ遅れてしまったことが本当にあるのだそうです。

一月一日の地震の夜、一緒にいたいところが真剣な顔で「やっぱり外へ逃げるべきだった。」と言いました。私たち家族は皆がいるから大丈夫という根拠のない自信に縛られ、身を守ることをさえ忘れていました。また、姉の避難に関しても、留まるべきか避難するべきか躊躇してしまいました。その躊躇した一瞬で逃げ遅れて

しまうかもしれないのに。

「これくらいなら大丈夫」「みんなと一緒にだから大丈夫」と思わず、自分から率先して行動できる人になりたいです。その行動が自分と皆の命を守る第一歩になるのですから。

「普通」は誰が決めるのか

甘楽町立甘楽中学校

三年 荒木 皐佑

「普通」って何でしょうか。「普通」でありたいものとは何ですか。そもそも「普通」とは、どのような状態を指すのでしょうか。皆さんはこのように聞かれたときにどのように答えますか。「普通」とは皆と同じであることでしょうか。普通でありたいものは人によつてその答えは様々であると思います。しかし、私は「普通」のことや状態は本当にあるのだろうかと考えています。

なぜなら「普通」とは、人間の都合の良いように解釈するために存在し、本当は「普通」は「普通ではない」と考えているからです。「普通」の語源とは何なのでしょう。また、「普通ではない」とはどういうことなのでしょう。

まず「普通」という言葉の意味を辞書で調べてみる

と、「いつでも、どこにでもあつて珍しくないこと、他と比べて特に変わらないこと・特別ではなく一般的であること」でした。言葉の由来は、中国の「平常」という言葉から来ています。日本では平安時代に平常という言葉が取り入れられ、その後「普通」となったそうです。言葉をさかのぼってみても、遠い昔から、他と比べても何も特別なことがない標準的なさまという意味として使われていました。

次に「普通ではない」とは何かについて、それは私自身の生活の中での体験が元になっています。一つは私の温度感覚の話です。毎年冬の季節になると皆さんは服を重ね着したり、セーターなどの暖かい服を身に着けたりすると思います。しかし、私の場合は温度感覚が鈍いため、夏服で一年過ごします。私にとって冬の季節の温度は涼しいと感じるのが「普通」ですが、家族や先生方、友達からは「普通じゃない」と言われています。もう一つは母の高校選びの話です。母は人と違うことをしてみたいという冒険心で片道2時間かかる高校へ行ったそうです。やはり先生方や家族には

普通は選ばない、考え直すように言われたそうですが、自分の意思を貫いたそうです。こうしてみると、知らず知らずのうちに自分の中の「普通」で判断し、行動しているように感じます。私も自分の普通で物事を考えてしまうので、どうしても自分が中心となった考えを持ってしまいます。しかし、相手の身になって「普通」を考え直すことによって、初めて相手の普通と同じ、同じような考えや行動をするようになるのではないのでしょうか。

そして、自分の持っている「普通」と相手の持っている「普通」は互いに見たときにそれは自身にない「特別」なものになるのではないのでしょうか。

「普通の人」、「普通の人生」というものや状態は本来存在しないのではないかと考えています。「普通」とは、基準となるような状態やものを表す言葉として解釈できるものとして作られたと考えています。しかし、普通でいることで、皆と同じ考え・同じパターンであることで安心出来るという心理もあると思います。基準や一般的なものを決め、それを「普通」とし

て物事を考えるのは便利ですが、それは時として人を差別する兵器にもなりうるものです。あくまでも「普通」という言葉は多くの事例に沿った状態やものを表すものです。

皆さん、決して自分のことを「普通」と思わないでください。あなた方は普通の人に見えて普通ではない、特別な存在なのです。そして、自分の「普通」は相手の「普通」ではありません。自分の意見や個性、特徴を大事にしてください。また、相手とコミュニケーションをとるときには相手にも「普通」があることを忘れないでください。そして「普通」は「普通じゃない」「ことを念頭に置いてこれからの人生を「special」にしていきましょう。

言葉の持つ力

甘楽町立甘楽中学校

三年 吉田 蓮

皆さんが普段何気なく使っている言葉にはどのような力があると思いますか。思いを伝える、感動を与える、意識を変えるなど様々なものがあると思います。

僕は言葉には二つの大きな力があると思います。

一つ目は人を励まし勇気を与える力です。もしみなさんの友達が、元気がなかったり悲しそうだったりしたら皆さんはどのような声をかけますか。「大丈夫？」

「話聞くよ」など前向きな言葉をかける人が多いでしょう。僕はサッカー部に所属していますが、県大会では自分のミスで負けてしまいました。チームメイトにあやまった時、あるチームメイトが「誰も悪くないし一生懸命みんな頑張ったよ。これからもっと頑張ろう。」と言ってくれました。僕にとってはとても励みになりました。今でも自分が部活をやるうえでのモチベー

ションになっていきます。いつもは冗談を言って、みんなを笑わすような人だけれど、その時の言葉はとても重く力がありました。この体験を通して言葉には人を励まし、勇気を与えることができるといった大きな力があるのではないかと強く思いました。

二つ目は言葉には人と人とを結びつける力があることです。僕たちは言葉を通じてコミュニケーションをとり、思いや考えを表現することで、同じような経験や考えを持つ他の人々とつながることができます。僕もみんなとは違う学校からきたので最初は友達ができるか不安でした。そこで自分の考えや共通の話題でコミュニケーションをとることで多くの人と仲良くなることができました。これらのことから僕は、言葉は僕たちの共通の言語であり関心や価値観を共有する懸け橋になるのではないかと考えます。

一方でその逆もあると思います。流れで言ってしまったたり、その場の雰囲気やノリで言ってしまったりした些細な言葉で人を傷つけてしまった経験がある人もいるのではないのでしょうか。言葉は簡単に人を傷つけ

ることができてしまいます。そういう自分も軽い気持ちで言った言葉で人を傷つけていたかもしれません。これらのことを大きくしたのが誹謗中傷だと思います。インターネットが普及したことにより最近では誹謗中傷が原因で自殺したというニュースもよく見かけます。言葉には人を傷つけることができるという力があり、一人一人が言葉の力や意味を理解し使う必要があります。

「ペンは剣よりも強し」という言葉があります。知っている人もいるのではないのでしょうか。言論の力は武力よりも人々の心に訴える力が強いという意味です。世界でも言論統制が行われている国があることから言葉は武力よりも大きな力があるのではないのでしょうか。では直接言わなければどんな言葉を言ってもいいのでしょうか。そんなことはありません。2022年大阪府で僕と同じ中学三年生が SNS 利用時にクラスメイトからの「死ぬ」や「消えろ」といった言葉により自殺したという事件もありました。普段いじりとして使っていた言葉がいじめになることもあります。直接言

わなくても言葉には大きな力、影響力があるのです。直接じゃないからいいではなく直接ではないからこそ自分の言葉が正しいのか、もし自分が受けたらどうなるのかを考えてみてください。言葉には人に勇気を与える、人と人とを結びつけることができるだけでなく、人を傷つけることもできます。これを機に自分が使っている言葉を見直してみてはいかがですか。

